

2011年10月31日

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク事務局 御中

白鶴酒造株式会社

“PET ボトル入日本酒”の販売に関するご質問への回答

1. 紫外線や空気に弱い PET ボトルに入れた場合、茶色の一升瓶と同じように、長い間、おいしく飲むことができますか？おいしく飲めるという場合、長期に保存した場合の「賞味試験」（味・色等）の結果をデータで教えてください。

(回答)

酸素の影響につきましては、今回採用の DLC コーティング PET ボトル（以下、DLC ペットと呼びます）では、酸素透過率を低く抑えられるため、ガラス瓶に近い品質保持性能があると評価しています。このことは官能検査によっても確認しています。

また、紫外線による品質劣化も防止出来ることを紫外線照射テストおよび官能検査で確認しています。

以上より、本商品は通常想定される期間内(1年間)でご賞味いただくことができます。

2. 新聞発表によれば、「内側に炭素をコーティングする」とのことですが、使い終わった後にリサイクルするときに、他のコーティングしていない PET ボトルと混じっても問題はありますか？

(回答)

DLC ペットにつきましては、PET ボトルリサイクル推進協議会が定める自主設計ガイドラインのボトル材料評価基準に従って行われた評価試験により、使用可能と評価されています。

3. プラスチックは酸化防止剤など様々な化学物質を添加しないと作れませんが、その添加物や内側のコーティング物質などが、お酒に溶出することが心配されます。もし問題ないとするのでしたら、ppb レベルの検出限界で計測した溶出試験の結果を教えてください。

(回答)

PET 容器および DLC ペットには、酸化防止剤などの化学物質は添加されておりません。また、この容器は食品衛生法の食品添加物等の規格基準(昭和 34 年厚生省告示第 370 号)に適合することも確認しています。

4. そもそも、環境負荷の低いリユースの代表選手である一升瓶を止めて、使い捨て型の環境負荷の高いPETボトル容器に変えることをどう思っているのですか？

(回答)

本商品はストック用として適量（1.5L）であり、家庭用冷蔵庫のドアポケットに収まる、軽くて取り扱いやすく、持ち運びが便利であるといったお客様や流通様からのマーケティング上のニーズに基づき開発し、日本酒の市場活性化施策の一つとして発売いたしました。1.8L瓶の代替容器として開発したのではなく、1.8L瓶の使用を止めるつもりもございません。

1.8L瓶の拡売につきましては当社の重要な課題と位置付けており、「上撰白鶴 1.8L瓶」の広告宣伝などを通じて継続的に行っております。この活動の一部としまして、この度の日経MJ広告賞にて優秀賞をいただきました。

5. 今日、消費者が飲料した後の容器包装をリサイクルする責任は、一義的に製造事業者が担うことが求められており、この考え方は「拡大生産者責任」と呼ばれます。「拡大生産者責任」という考え方は、我が国の各リサイクルに導入されつつありますが、もっとも大切なことは環境配慮設計（Design for Environment）です。今回の日本酒を入れたPETボトル容器はDfEが十分に果たされた容器だとお考えですか？果たされたとお考えの場合、具体的にはどのような点ですか？

(回答)

容器包装の3Rは、当社としましても重要な課題として取り組んでいきたいと考えており、現行法で定められている事業者の責任範囲である再商品化義務は勿論果たしてまいります。

また、PETボトルは、回収率も高く、資源として再利用が進んでいることなどから、当社の商品に適した容器と考えております。

以上